



MIYOSHI
CENTRAL HOSPITAL

第4号
2005年4月

市立三次中央病院だより

花みずき



OPEN

お知らせルーム

花みずき

.....メニュー.....
医学関連図書・ビデオによる医療情報
地域の行儀・医療・福祉情報
インターネットetc



基本理念

私たちは地域の皆様から信頼され
親しまれる病院を目指します

(財)日本医療評価機構 認定証取得

当院は、本年1月24日財団法人日本医療機能評価機構による認定病院として認められ、認定証を授与されました。

近年、住民の保健医療に対する関心や要求はますます高まってきており、常に適切で質の高い医療を安心して受けることが強く望まれていきます。財団法人日本医



療機能評価機構には、病院の機能を学術的観点から中立的な立場で評価する第三者機関としての役割があり、当院は、昨年度この評価を受けました。審査は755項目に及ぶ書類による事前審査と、昨年1月29日から31日までの3日間は、機構から7人のサーベイヤー（医師・教授・看護師・技師などの専門家による審査員）を迎え訪問現地審査を受審しました。この審査を受けるための準備の過程で、院内の各職場では診療・手術・看護はもとより受付表示やごみ出し方まで、ありとあらゆる事柄に細かくチェックを加え、受審へ向け病院が一丸となって取り組みました。このことよって、それぞれのセクションでの改善事項が明確になると同時に、なすべき目標がより具体的に目に見えてきました。

第一次結果公表では、救急体制の一部にも少し不十分なところがあったため認定留保となっておりましたが、昨年7月の24時間小児救急スタートと同時に課題であった救急体制全体の充実を図りましたので、この度正式に認定を得ることが出来ました。これを機に地域の中核拠点病院としての機能に一層磨きをかけ、皆様からの信頼と安心を得られるよう期待に込めてまいります。

リニューアル



人工透析室・小児科外来・エントランスなど、改修工事を進め快適な療養環境の整備に努めています。

小児科外来改装三診へ

昨年、小児救急24時間体制がスタートし、小児科を受診される患者様も多くなっております。このため、二診から三診へ診察室の増設と処置室を拡充するとともに、待ち時間に少しでもリラックスしていただくため、小児と保護者の方が一緒にご利用いただけるプレイルームやトイレを新設しました。

エントランス屋根増設

雨の日でも、身体障害者用駐車場やタクシーをご利用いただく方が安心して出入ができるよう、正面エントランスに雨よけの屋根を増設しました。

人工透析室増床

全国的にも糖尿病による慢性腎不全は増加し、人工透析患者数は増加傾向にあります。また、近隣の透析施設から当院への合併症等による転入も増加しています。このような地域の皆様のニーズに応えるため、透析病棟を15床から20床に増床拡充し、あわせて、待合室及び高齢者や車椅子の方に不便をおかけしないようトイレを再整備しました。



最新鋭MRI

導入!!

皆さんは「MRI」から何を想像されますか。

「せまくてこわそう...」
「音がうるさい...」

「時間が長い...」など
私たち技師はこんな患者様の不安に対し、撮影中の声かけや、患者様の様子の把握などを行い、安全な検査を実施出来るように取り組んでいます。

しかし、こうしたことの反面「MRIはエックス線の発見以来の診断学における最も重要な進歩である」と言われています。

現在MRIは、放射線医学における主たる診断法に成長し、今や人体のどの領域にも適用されるまでになっています。

待ち日数解消へ

昨年六月より、当院二台目となるMRI装置を導入しました。近年は検査の需要が増大する中で、待ち日数が多く、皆様に多大なご迷惑をおかけしていましたが現在は二台で効率的な運用ができることにより、待ち日数は平均三日程度となりました。

もちろん、急を要する疾患の場合には、当日検査を行っています。

MRI検査とは

強い磁石と特殊な電波の力により人体内部を適切に見ることが出来る検査です。頭部領域の小さな疾患や整形外科領域、腹部領域、循環器領域などの全身部位の診断が出来ます。また、放射線を用いていないので、安心して検査を受けることが出来ます。検査はベッドに横になっているだけで体の向きを変えることなく、検査による苦痛もありません。



最新技術について

最近では、いろいろな撮影法が開発されていますが、その中の一つ「ディフュージョン」についてご紹介をします。従来の画像診断装置では、超急性期脳梗塞は描出困難でした。新しい装置では、この機能を使うことにより、梗塞巣を明瞭に描出(図1)することが可能になりました。このことにより、より早期に診

断し、適確な治療へと移ることが出来ます。(放射線科)

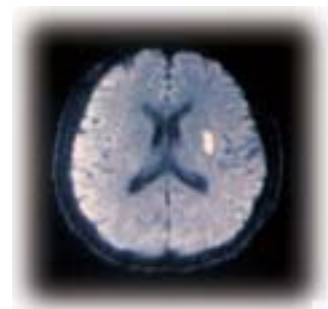


図1 白く光っている部分が梗塞巣

看護への思い(その4)

2階病棟・ICU 萬徳 美穂

私はこの病院に就職し、集中治療病棟(2階病棟・ICU)に配置になり、この春で8年目を迎えようとしています。地域中核病院として、年間約16,000人の急性期の患者様の来院がある中、看護スタッフは、検査科や放射線科・薬剤科などと常にきめ細かい連携を図りながら、救命処置や検査治療がスムーズに行なえるよう日々努力しています。

私は、救命救急スタッフとして、安全で安心な技術の提供ができるよう院外のACLS(救急蘇生法)研修などに参加するとともに、その技術の普及に院内研修会を開催しています。また院外での医師や技師・救命救急士等との事例検討会にも参加し、院外連携にも努めております。日々対応させていただく救急現場から今思う事は、救命救急活動は地域住民によって支えられる必要があるという事です。救急患者様は、高齢者の方々が多く、発症から発見されるまでの時間、発症直後の手当ての仕方等が生命を救う事に大きく影響します。一人でも多くの患者様が救命され、社会復帰できるよう最善を尽くすためには、救命救急法の地域の方々への啓蒙と連携が重要と考えます。

今後、この一助になれるよう院内外の多くの人々に支えられ「救命救命認定看護師」資格取得をめざし、毎日頑張っています。



好評!!紹介予約診察

司会 中央病院では昨年6月から連携室を立ち上げて1年半経過し、大変好評を得ています。まず、末永院長先生から…。

末永 「かかりつけ医」(開業医)さんの方から中央病院の連携室をご利用いただき、大変感謝しています。紹介患者さんには診察予約が出来ることで、待ち時間が少ないなどのメリットがあります。かかりつけ医の先生方の感想はどうでしょうか。

星田 (連携紹介システム)はかかりつけ医から中央病院にアクセスするのに非常に便利です。

患者さんも医師以上に喜んでおられます。これまで、症状によっては患者さんが中央病院に紹介してほしいと思

われていてもそれが(主治医に対して)言い出しにくいという現実もありました。しかし、今はより高度な医療を利用したい時など、患者側からの意思表示がしやすくなつたし、連携システムが定着してきているように思います。



星田会長

司会 患者さんにとっては、地域連携による紹介によって、セカンドオピニオン(主治医以外の医師の意見)的な利用も出来るということですね。

末永 患者さんにとってかかりつけ医に対しては言いにくいという面もあるが、ここら辺をもっとはっきりオープンに出来ればいいですね。患者さんも「紹介してほしい」とはっきり言われた方がいいと思います。

司会 そういう意味では、もっと地域連携システムをPRしないといけないですね。

末永 中央病院側も当院での治療が

終わったら、またかかりつけ医の方に帰っていただくことをはっきり言わないといけない。

星田 そうですね。かかりつけ医の方ももっとシステムをPRしないといけない。

末永 紹介状を持参いただき診察させていただいた方がかかりつけ医の元へ帰りやすいですね。

今後スムーズな連携のためには、地域の医師同士が信頼関係を高めるために親睦を図り、コミュニケーションをとる必要がありますね。

ところで、昨年は医師会と中央病院共催で、90名もの参加を得て「合同カンファレンス」(勉強会)を開催しました。その時もありましたが、中央病院に対する要望などはどうでしょうか。

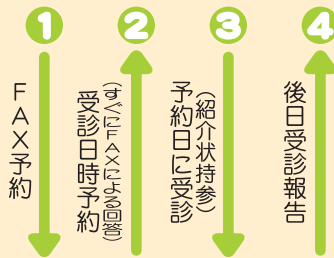
欲を言えば、まだいわゆる空白診療科があります。医師偏在の問題が解決するのを待たねば…。心臓血管外科までは要求しないが、血管系は広島病院への紹介が多い…。血液系では、貧血を診た場合白血球病や悪性リンパ腫なども結構多いです。また、認知症やアルツハイマーの患者さんも多くなっていますが、精神科を含めてどこへ紹介するか、かかりつけ医の皆さんはそれぞれ悩んでいると思います。

末永 血液病やリウマチとか免疫学的な疾患のところが必要ですね。それに、心療内科や精神科も含め、やはり安定した連携が欲しいところです。

星田 それと、紹介して返事をいただくわけですが、予期した以上に(中央病院の)先生は、実に親切・丁寧に書いてくれています。

地域連携紹介システム

担当医師(どの科もOK)と日時の予約が出来ます!



対談

STEM「地域連携」

三次地区医師会長 星田 昌吾
 市立三次中央病院長 末永 健二
 司会：事務部長 湧田 耕生

医療／保健／介護の連携を

司会 大まかな役割分担としては、中央病院が急性期を、医師会の医療センターが慢性期の医療を担う。それにかかりつけ医さんがおられる。また、福祉施設を併設した私立の医療機関が二ヶ所あるという構図です。

今後は、これら病院としても病診連携だけでなく、保健・介護との連携が重要になって来ていると思います。そのあたりを...

末永 地域医療の中で、それぞれの役割分担がよく見えないところがあつて、今後は地域住民の側からはつきりと姿が見えるようにするのが我々の役割であるかと思つて。

急性期治療が終わられた患者さんにとって、自宅へ帰れない場合どうするか。いろいろ選択メニューを出して相談を受けながら、それを選べるようなシステムがあればいいと思います。ね。

星田 尾道の医師会が、訪問看護を



末永病院長

利用した受け皿づくりでの取り組みで有名です。患者さんの家庭を個々に訪問する「訪問看護」のみに留まらず、かかりつけ医さんとヘルパーさんなどが一体となつて、患者さんを出来る限り在宅で診ようという考えです。家族も安心ですね。

司会 二次にも数ヶ所訪問看護ステーションがありますが、うまく機能しているんでしょうか？

星田 都市部にくらべ、人的にも地理的にも恵まれない中で、全部がとは言えないが、比較的よくやっていらつしやると思っています。

「在宅に帰ろう」というけれど、家族がいなくておじいさんとおばあさんの二人きりだとか、なかなか難しい問題です。ね。

司会 そういう患者さんは施設とか医療センターとかでの受け入れですか？

星田 そうです。と言つても、患者さんを、「病院でも施設でもどこでもいいから...」と全部を頼られても困るわけで、家族の方にもお願いする事も多々あります。

司会 これから、住民の健康を考え

ていくうえで医療・保健・介護の連携が重要となる中で、かかりつけ医と病院の果たす役割は大きいと思います。

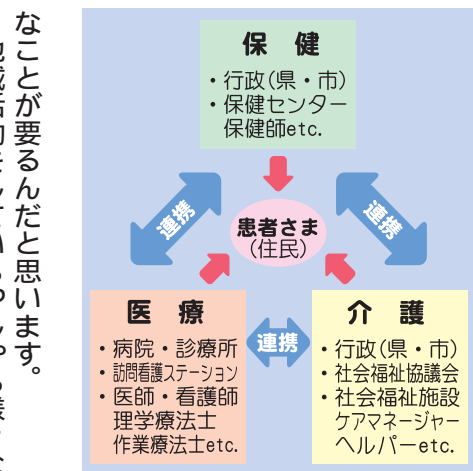
末永 介護保険の見直しの中で介護予防の考えが出てくるし、健康増進法による「健康日本21」の流れもある。医療保険も介護保険も財政的にパンクするということで見直しが加えられているのですが、これからは、生活習慣病の予防と介護予防に積極的に取り組んでいかなければならないですね。

地域で組織的に、機能的に行うことが必要で、こうした見直しは、地域住民の健康づくりの大きなチャンスであるから、病院も地域の医師もこの大きな流れの中に入つて行つて、市全体でどう推進していくかということ立案して行くことが必要だと思つています。

星田 そろそろ医者も地域を見据えた視点で、積極的に疾病予防に関与しなければならぬということですか。

司会 ノウハウとか知識・技術とかそういう医療の分野が持っているものを地域の健康活動へ提供していただきたいということですね。医師会としての今後の役割はどうでしょうか？

星田 やはり、かかりつけ医がそれぞれのフィールドを分担しながら、地域住民の活動を医学的な面で引っぱって行くよう



なことが要るんだと思います。地域活動をしていらつしやる様々なクラブやサークルの皆さんから気軽に声をかけていただくように、日頃から心掛けていかなければなりません。

末永 それは自発的な活動でない、続けるのはなかなか難しいでしょう。他に医師会として結構頑張っているところがあるんですか？

星田 予防的な活動については良く知らないが、先程お話しした在宅医療・介護の分野では尾道や呉などが先進地です。地域に溶け込めるかどうかだと思います。

司会 病院の中にチーム医療があるように、地域で医師や看護師、保健師やケアマネジャーなどがチームを組んで、一人の患者さんに対してどう関わられる

かということですね。

星田 往診をしていると良く分かるのだが、今までかかりつけ医は一人でやっていた。いわば孤軍奮闘です。今はそれでは間に合わない事が分かった。チームが組めるシステムが出来て、うまく利用すれば患者さんのためにもなるし、診療する方も大いに助かります。これも介護保険が充実したからだと思います。

末永 今までは介護のスタッフとか保健のスタッフとかで住民の健康づくりを考えていた。これに医療が一枚加わることは、質も上がるだろういろいろな意味でいいと思います。

また、医師に対して信頼が増すでしょうね。

司会 各分野がそれぞれの機能を生かしながら相互に連携をし、地域の皆様に安心を提供出来ればいいですね。

星田 医師会は他の組織などの意見も聞きながら、自ら変革しなければならぬ。現在、医療センターも250人近い人を雇用し地域貢献をしていますし、地域の皆さんがイメージされている「お医者さん集団」ではないのですよと、この場を借りて大いにアピールしたいと思います。

バリ島から看護研修生

又ガラ病院のさわやかな二人



SELAMAT SIANG

私達は、三次にきて本当に楽しいです。また、色々勉強になってとても嬉しいです。三次の病院は設備がよくて技術が高いです。皆さんの仕事の規律はとても素晴らしいです。皆さんは私達にとっても親切です。私達は三次の病院とジュンブルナ病院の協力が永く続くように努力し、そう願います。

NI LUH KADE WIRIANTINI NI EYUT SUMARNI
S. Wiranti E. Sumarni

司会 よく医師会と公立病院はあ意味で競争関係にあるとも言われますが、三次地区は非常にうまくいっていると思います。

星田 確かにかつては競合している面があった。医療センターが移転して、経営方針、理念を大きく転換しました。(他との)機能分担を明確にしたという事です。

現在は、おかげ様で中央病院をはじめ他の医療機関からの理解が得られ、住民の皆様にも認めてもらっている所です。経営努力も一生懸命やっています。

司会 地域連携は経営的にも安定していかないといけないという事です。星田・末永 今後とも、がっちり連携して行きましょう。(三月四日収録)

インドネシアのバリ島は「神々の島」といわれる神秘に満ちた美しい島で有名です。そのバリ島ジュンブルナ県又ガラ病院から2名の看護師の研修を、2月1日から3ヶ月間お引き受けすることになりました。スマトラ沖地震の大惨事の後でしたので予定通り来られるとお聞きしたときにはその熱心さに感服し、これは何が何でも「良かった」といわれる研修にしなくては、と私達も意気込んで準備に取り組みました。

彼女達の住むジュンブルナ県について少し紹介します。バリ島には8つの県がありジュンブルナ県知事は、かつて広島大学留学の経歴をお持ちで、知事に就任されてからは教育、医療に力を注いでおられます。公立教育機関は全て無料で、就学率はASEAN諸国の中でも驚異の98%を誇っておられます。また、医療では県民に対し県内全ての公立病院が24時間体制で無料診療を行っており、さらに高水準の医療技術取得のため医師、看護師が日本の各地で研修されています。

三次での生活のお役に立ちたいと1月29日には来日に先立ちボランティア

アで引越し準備を行いました。そして大雪の2月1日、生まれて初めて見る雪に驚いているウィリアンティニさん、スマルーニさんを当院へお迎えいたしました。その日の歓迎セレモニーでは日本の文化に触れていたかどうかと詩吟やお茶席、銭太鼓に踊りと俄仕立てではありますが披露しました。見学を主体とした研修ですが、彼女達の学ぶ姿勢には脱帽してきます。この広報が出るころにはもう彼女達の帰国も近いのですが、もし病院の中で彼女たちを見かけられたら「セラマシアン(こんにちは)」とぜひ声をかけてあげてください。言葉は通じなくても心が通じます。

(看護部)



地域と医師

研修医ノート

Vol.1

新臨床研修医第一期生
坂口 文



臨床研修医第一期生として、がんばっています

臨床研修制度が新しく変わり、私たちは新しい研修システムの第一期生です。これまで、大学を卒業するとすぐに各専門科での研修が行われていたのですが、これからは、2年間かけて実地臨床現場で研修することが法律で義務づけられたのです。このように制度が変わった背景として、すべての医師に幅広い初期対応能力を身につけて欲しいという社会のニーズがあったのだと思っています。そのニーズに答えるべく、私は現在、ここ市立三次中央病院で研修をさせていただいています。昨春から、内科5ヶ月、外科3ヶ月の研修のあと、現在は麻酔科を研修中です。分らないことばかりで手探りの毎日ですが、皆様方の熱心なご指導のもと、日々多くの学びを得ていま

す。私にとって、三次は医師としての第一歩を踏み出した初めての医療現場です。ここでの出会いを大切に、いつの日か三次の皆様にご恩返し出来る医師となるように一杯努めていきたいと思っています。



平成16年度より医師の研修が必修化されました。臨床研修病院の当院では2人の研修医を採用しましたが、2年間の研修期間のうち、必須科である内科、外科、麻酔科、救急医療、小児科、産婦人科、地域医療（保健所・診療所など）をローテーションで研修し、残った4か月の間は自由選択科を研修します。それぞれの科における指導医は5年目以上の臨床経験をもつものが担当し、マンツーマンで指導します。救急医療については、2年間を通して週1回の当直（副直）を上級当直医の指導管理下に行っています。

市民の皆様には、診察室や病棟などでの彼らの様子を見られて、何かお気づきの点があれば是非ご教示くだされば幸いです。研修をより充実したものとし、立派な医師として当院より送り出したいと思っています。

臨床研修指導責任者・診療技術部長
永澤 昌

研修医ノート

Vol.2

新臨床研修医第一期生
坂手慎太郎



プライマリケアと地域医療の修得をめざしています

私が、この市立三次中央病院を研修病院として選択した理由は、第一

にプライマリケア（総合診療）の基本を身につけたいと思ったからです。特に、救急外来での診療に興味を持っています。様々な訴えで来院される患者様の状態を把握し、検査・治療への流れを的確に行えるようになりたいからです。現在は小児科を研修中で、小児救急になんとか対応できるようにになりたいと思っていますが、ご家族に病状を説明し安心していただくことがなかなか難しく、悪戦苦闘しています。それでも、指導医と相談しながら治療方針を決め、その説明をしていくなかで、大変な責任を感じながらも、とてもやりがいを感じています。

また、三次市が私の出身である津山市と雰囲気似ていることも、ここを選ばせていただいた理由のひとつです。今年の12月には地域医療の研修プログラムとして、診療所や保健所での研修もあります。地域のニーズに応じた医療の実践、保健・福祉との連携など学ばなくてはならないことが多いのですが、2年間の三次での研修において、できるだけ多くのものを修得し、今後の医師生活においては人生の糧にして行きたいと考えています。



話題の「アミノ酸」正しく摂取しよう

私たちの身体は20種類以上の「アミノ酸」からなるタンパク質で構成されています。なかでも「必須アミノ酸」と呼ばれる8種類は、体内で作ることが出来ないため食事から上手に摂取する必要があります。

★アミノ酸の効果

激しい運動をすると身体を動かすためのエネルギー源として糖分や脂肪のほか、タンパク質も消費されます。そこで運動前や運動中にアミノ酸を摂取すると、体内のタンパク質消費を防いでくれます。また、運動後に摂取すると破壊された筋肉を修復し、疲労回復に役立ちます。その他、脂肪燃焼効果、抵抗力アップ、などがあります。

★正しい摂取は、バランスのよい食事から

1種類のアミノ酸を多量摂取すると他のアミノ酸の働きを阻害したり、体のさまざまな調節機能に支障をきたしかねませんのでバランスよく摂ることが重要です。

まず、見直してほしいのが毎日の食事、一般に「良質タンパク質」といわれている肉や卵、魚、乳製品は

8種類の必須アミノ酸がバランスよく含まれています。この「良質タンパク質」と、さまざまな栄養素を含む食品の摂取量を守り、バランスよく食べることが大切です。そのうえで補助食品（サプリメント）やアミノ酸飲料などを上手に活用しましょう。

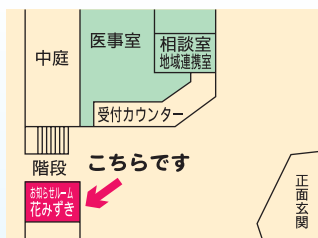
清涼飲料水として売られているアミノ酸飲料には糖分と同じカロリーがあります。運動などで消費しない場合は、糖分や脂肪に変わり蓄積され太ってしまうこともあります。

(栄養科)

タンパク質(アミノ酸)を多く含む6食品

- 肉類・・・脂身の多いものは摂りすぎに注意
- 魚介類・・・必須脂肪酸やタウリンも多いため、積極的に摂取
- 卵・・・1日1個が目安
- 牛乳・・・乳脂肪が気になるなら低脂肪乳に
- 大豆製品・・・他のタンパク質と組み合わせ積極的に摂取
- 穀類・・・他に比べ含有量は少ない、主食の米・小麦である程度確保

お知らせルーム 花みずき OPEN



1階ホールの旧喫煙室を改装し、患者様のための医療などの情報を提供しております。

愛称は「お知らせルーム 花みずき」で、患者様に気軽にインターネットや図書などで病気などの医療情報について調べていただく場所としてご利用いただきたいと考えております。

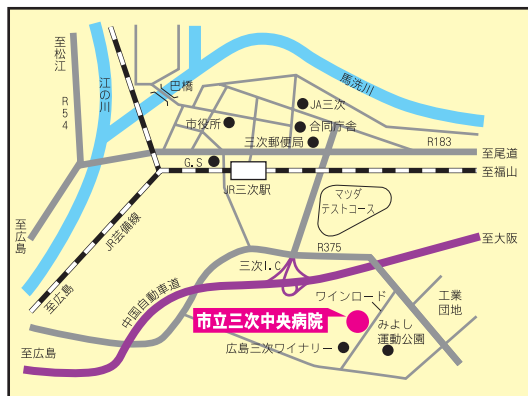
現在のところ、設備備品は医療情報などが検索できるインターネット端末、三次市の情報が得られる地域イントラネットの情報端末、ビデオ設備そして図書等です。

また、患者様のコミュニケーションの場としてご利用いただくことや、ボランティアの方による運営など、狭いスペースですが皆様のご意見をお聞かせいただきながら内容を充実させていきたいと考えておりますので、良い利用方法がありましたら、ぜひご意見をお聞かせください。

併せて、図書の寄付などもお受けしておりますので、医療・保健関係の図書がございましたらお願いします。

今後も、患者様と一緒に患者様のための「お知らせルーム 花みずき」の充実に努めたいと考えておりますのでご支援をよろしく願いいたします。

(地域連携室)



バス…芸陽バス・備北バス・中国バス (JR三次駅から約10分)
お車…JR三次駅から約6分、中国自動車道三次I.Cから約3分です。

広報「花みずき」に関するご意見などございましたらお寄せください。

2005年4月

発行 市立三次中央病院
〒728-8502 広島県三次市東酒屋町531番地
TEL:0824-65-0101 FAX:0824-65-0150
http://www.miyoshi-central-hospital.jp

保存版



市立三次中央病院

平成17年 4月 1日更新

外来診療担当医師一覧表

受付時間 8:30 ▶ 1:00

ただし特殊外来は除きます。

案内番号	診療科	月	火	水	木	金	特殊外来	
6	内科	第1診察	森中 賢二	末永 健二	濱田 敏秀	末永 健二	中井 訓治	糖尿病外来(月) 14:00~(要予約)
		第2診察	吉田 敬	吉田 敬	増田 憲治	吉田 敬	増田 憲治	腹膜透析外来(水)13:00~(要予約)
		第3診察	田中 幸一	田中 幸一	福田 幸弘	田中 幸一	福田 幸弘	呼吸器外来(水) 14:00~(要予約)
		第4診察	田中美和子	中井 訓治	上野 敏憲	重岡 尚也	島 秀行	
		第5診察	濱田 敏秀	望月 久義	島 秀行	望月 久義	望月 久義	
		第6診察	田坂 浩嗣	森中 賢二	福山 耕治	森中 賢二	橋本 義政	
		処方外来	福山 耕治	増田 憲治	橋本 義政	田坂 浩嗣	福山 耕治	
		人工透析	上野 敏憲	上野 敏憲	上野 敏憲	上野 敏憲	上野 敏憲	
		内視鏡	島・重岡	濱田・橋本・重岡	森中・田中美	島・中井・上野	濱田・田中美	
		心エコー	福田 幸弘	福田 幸弘	田坂 浩嗣	福山 耕治	田中 幸一	
		腹部エコー	中井・上野	島・田中美	中井・重岡	濱田・橋本	森中・重岡	
		ペースメーカー			田中 幸一			
	心筋シンチ				福田 幸弘			
	巡回診療							
	健診	第1診察	望月 久義	上野 敏憲	望月 久義	増田 憲治	吉田 敬	
第2診察		増田 憲治	田坂 浩嗣	吉田 敬	上野 敏憲	上野 敏憲		
救急診療科	午前	橋本(内)	福山(内)	重岡(内)	田中美(内)	田坂(内)	第1・3・5水:橋本(内) 第2・4水:外科担当医 第1・3木:上野(内) 第2・4木:橋本(内) 第5木:島(内)	
	午後	重岡(内)	田坂(内)	右担当医	右担当医	福山(内)		
整形外科	第1診察	下垣 浩一	高田 治彦	下垣 浩一	下垣 浩一	高田 治彦		
	第2診察	大石 芳彰	大石 芳彰	高田 治彦	大石 芳彰	夏 恒治		
	第3診察		夏 恒治	奥原 淳史	夏 恒治	奥原 淳史		
7	外科	第1診察	甲斐 良樹	佐々木 秀	立本 直邦	甲斐 良樹	佐々木 秀	ストーマ外来(第2水)14:00~
		第2診察	立本 直邦	小林 健	内藤 浩之	小林 健	内藤 浩之	
	耳鼻咽喉科	第1診察	永澤 昌	永澤 昌	手術	永澤 昌	永澤 昌	小児慢性疾患外来(月) 受付13:30~15:00 診療14:30~16:00
第2診察	野田 礼彰	野田 礼彰	野田 礼彰	野田 礼彰				
第3診察	林 直樹	林 直樹	林 直樹	林 直樹				
眼科	第1診察	添田 祐	添田 祐	添田 祐	添田 祐	添田 祐		
	第2診察	野間 謙晴	野間 謙晴	野間 謙晴	野間 謙晴	野間 謙晴		
	午後	予約外来	手術	予約外来	予約外来	手術		
8	産婦人科	第1診察	赤木 武文	中郷賢二郎	赤木 武文	中郷賢二郎	赤木 武文	いきいき広場(木) 13:00~15:00 妊婦教室 (第4火)13:00~15:00 母乳外来 (木) 15:00~16:00 更年期外来 (火) 14:00~
		第2診察	正路 貴代	赤木 武文	正路 貴代	正路 貴代	中郷賢二郎	
	泌尿器科	第1診察	丸山 聡	丸山 聡	小林 加直	丸山 聡	丸山 聡	
午後	手術	結石外来 予約検査	手術	結石外来 予約検査	結石外来 予約検査			
皮膚科	午前	小迫 雅敏	小迫 雅敏	小迫 雅敏	小迫 雅敏	小迫 雅敏	慢性外来(水)14:00~16:00	
	午後	検査	手術	慢性外来	手術	検査		
9	小児科	午前 第1診察	大西 博之	中原 宏	大西 博之	原 圭一	大西 博之	慢性疾患外来(火・金)13:45~16:00
		第2診察	原 圭一	林 知宏	中原 宏	中原 宏	林 知宏	予防接種(火・金)13:45~16:00
	午後 第1診察		大西 博之	原 圭一	大西 博之	大西 博之	心臓外来(木)14:00~	
	第2診察		担当医	林 知宏		担当医	乳児健診(水)13:00~14:00	
脳神経外科	第1診察	川本 行彦	手術	川本 行彦	手術	忽那 宗徳		
	第2診察	渡邊 陽祐		忽那 宗徳		渡邊 陽祐		
歯科口腔外科	第1診察	芳村 喜道	芳村 喜道	芳村 喜道	芳村 喜道	芳村 喜道		
	第2診察	林 大祐	林 大祐	林 大祐	林 大祐	林 大祐		
麻酔科(ペインクリニック)	手術	柳谷 忠雄 門馬 和枝	手術	手術	手術		担当医隔週交代	

耳鼻咽喉科(水)・脳神経外科(火・木)は手術のため、休診日とさせていただきます

僅か32%!!この数字は「外来語の認知度」調査において、「インフォームド・コンセント」という言葉の認知度の結果です。(ちなみに認知度1位の「ストレス」は90%強)一般の方にはまだまだこの言葉の認知度は低いようですが、内容を含め、もっと広く知られるべき言葉だと思います。

インフォームド・コンセントを直訳すると、「説明・同意」となります。すなわち、私たち医療従事者の側から言えば、「医療行為を行う際、その内容についての十分な説明を行い、ご理解いただいたうえで、同意をいただく」ことが主旨です。

かつては、「外科医師」「胃癌です。手術が必要ですから、手術をしましょう。」
「患者様ご家族」「はい。先生にお任せします。よろしく願います。」
の会話で、手術が行われていた、なんて時代もあった??ようです。
しかし、現在は、

診断にいたる過程とその結果
考えられる治療法(一つとは限りません)
とそれを選択する理由
治療によって期待出来ること、また治療を
しなかった場合の今後

さらには、検査や手術の詳しい方法や危険性、合併症等々について、出来るだけわかりやすい言葉に置き換えて、また図表やイラスト等も利用して説明するよう、心がけております。その上で、「同意と依頼」をいただき、我々は、はじめに医療行為を行うことが可能になります。

インフォームド・コンセントをきちんと行うことは、医師にとつて最低限の義務と考え、当院では、接遇の研修会等も積極的に取り入れ、皆様にご理解とご納得の上、少しでもご満足いただける医療を提供するよう日々努力しております。

一方円滑なコミュニケーションを図るために、患者様にもお願いしたい点がいくつかあります。特に入院や手術などの場合、

説明に十分な時間を設定するために、必ず予約・約束を取る。(急に来院されて説明を求められても、十分な時間を取れないことがままあります)

説明は複数人で聞く。(個別に依頼されても困ることがあります)

ご自分の症状等について包み隠さず伝える。きちんとわかるまで聞く。(わかるまでどんどん質問してください)

十分納得した上で同意する。(直ぐに返事をする必要はありません。皆様でよく考えご返事をいただいで構いません)

さらに、他の医師の意見や説明を聞きたいとお考えの場合には、「セカンド・オピニオン(第2の専門家の意見)」を求められても構いません。その旨を主治医に遠慮無くお伝えいただければ結構です。(これを拒むような医師は良い医師とは言えません。)

現代の医療において、大切なのは、患者様自身に積極的に医療に参加していただけるような環境を作ることと考えております。

ご意見、ご要望等もどしどしお寄せください。

お薬の内服方法



薬は食前、食後、食間のように食事に合わせて服用することが多くなっています。それは食事の時刻に合わせることにより、飲み忘れを防ぎ、服用間隔を一定に保つことができるからです。

服用時間の指示は、薬の効果や目的により異なり、最大の治療効果を上げ、副作用が最小になるように回数、内服する量、時間が決められています。

ご自分が服用している薬の治療目的をよく理解し、よりよい治療効果を上げるために、しっかり用法・用量を守って服用しましょう。

服用時間の目安

食前30分	食事のおよそ30分前に服用します。
食直前	お箸を持つ前と理解してください。
食直後	お箸を置いた後と理解してください。
食後30分	食事が終わっておよそ30分位までに服用します。
食間	食事のおよそ2時間後に服用します。
就寝前	寝る前に服用します。
頓服	医師の指示に従い必要な時のみ服用します。

※お薬を飲んでいる時、様子がおかしいと感じたら、すぐに医師や薬剤師に相談しましょう。

(薬剤科)